

# 国立国語研究所学術情報リポジトリ

For the description of reduplicated forms in  
Japanese

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-03-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 日向, 茂男, HINATA, Shigeo メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.15084/00001115">https://doi.org/10.15084/00001115</a>

日本語における重なり  
語形の記述のために

日向 茂男

要旨：日本語においても重なり語形，あるいは重ね言葉と呼んでよいような表現形式がいろいろと目に付く。ここでは，日本語の一回語形，重なり語形の問題を広く考察し，また，日本語教育上，問題となる点を考察するための基本資料の一部として，以下のふたつの資料を作成した。

（資料1）重なり語形の分類

（資料2）一回語形，重なり語形からみた擬音語・擬態語の分類

キーワード：重なり語形，一回語形，擬音語・擬態語

**Abstract** : Japanese and some other languages contain some reduplicated forms or words. This paper discusses two kinds of data which are considered to be fundamental to the better description of such forms and help in clarifying one of the difficult problems in the Japanese language teaching for foreigners.

Data 1. Classification of reduplicated forms.

Data 2. Classification of onomatopoeia from the viewpoint of semi-reduplicated forms.

**Key word** : reduplicated forms, semi-reduplicated forms, onomatopoeia

## 1. はじめに

これは、昭和60～61年度文部省科学研究費一般研究「日本語語彙教育のための分類用例集の開発と試作」(課題番号60450063)、及び昭和61～62年度同上「日本語教育における指導要素としての言語単位に関する研究」(課題番号61450065)による研究成果の一部をまとめたものである。これらは、日本語教育における語彙の教育・指導(とうぜん、そこには学習のための配慮が含まれることになる。)の問題を中心課題としていることで連続的な面を持った研究課題である。

前者では、日本語学習者が初級段階で導入されるいろいろな表現の型、つまり文型を実質的な運用における言語能力とするにあたっての語彙のさまざまな問題を扱おうとした。後者では、単語・連語をはじめとして文型にまで及ぶ語彙の教育・指導上の単位となる要素の検討をめざしている。

こうした課題のうち、ここでは日本語における表現の一回形、重なり形の問題の一部をごく簡単に述べ、また簡単な資料を添えることとする。

## 2. 重なり語形について

日本語においても重なり語形、あるいは重ね言葉と呼んでよいような表現形式がいろいろと目につく。ここで、仮に重なり語形と名付けたものは、語、語句などの同じ成分を繰り返し重ねて使用する方が一般的となったもの、また一回語形を強調したり、頻度の多さを示したりするものである。

したがって、これを広くとらえれば、

- (例1) やま(山) → やまやま
- むら(村) → むらむら
- すみ(隅) → すみずみ
- ひ(日) → ひび

などの例も含まれることになる。(ここで、(例1)の後半の2例は、連濁を起こしているが、その問題は無視することとする。)

次の(例2)、(例3)、(例4)、(例5)は同じ語(あるいは語幹のみ)、

語句の繰り返し、つまりそれを重ねることによって一つの表現形式となっているとみてよいかもかもしれない。

- (例2) おり(折) → おりおり  
だん(段) → だんだん  
ほど(程) → ほどほど

こうしてみると(例1)の後半の2例「すみずみ」「ひび」は、(例2)の方に加えた方がよいという判断も成立するが、一回語形、重なり語形の関連の様相を多く見ていくと、(例1)から(例2)へは連続的で、にわかに境界をひくのはむずかしい。

- (例3) 軽い → かるがる  
薄い → うすうす  
嫌だ → いやいや

(例3)では、形容詞、形容動詞の語幹を用いて別の一語を形成しているとしてよいだろう。こうしたものとは別に、表現上の価値を高めるために用いられる語句の重なり形では、次のようなものがある。

- (例4) 日に → 日に日に  
一日 → 一日一日(と)
- (例5) 来る(は) → 来るは、来るは  
敗ける(は) → 敗けるは、敗けるは

また、次の(例6)は、重なり語形としては変則的だが、慣用表現上の問題として取り上げる必要があるだろう。

- (例6) 飲む → 飲んでも、飲まなくても  
読む → 読めば、読むほど

これらの例のうちには、重なり語形が強調や頻度の多さを示すために用いられるといっても一回語形では文の成分たりえないものがある。たとえば、

(例7) \*日に成長する  
とはいえないが、

- (例8) 日に日に成長する

といった類である。こうみてくると、重なり語形はその用法についての考慮も望まれることになるが、その前提としての単位の設定にも一応の基準がなかなか立てにくい。(例5)は、重なり語形としてよいか、その取り扱いが微妙になるところだが、(例6)は、重なり語形として取り扱える範囲を越えているともいえる。ただ、この慣用表現上の問題は、日本語教育では表現のひとつの型、つまり文型の一問題として扱われ、教育上の一課題である。

重なり語形の問題について、簡単に述べてきたが、この重なり語形をごく一般的な形とする語彙群が日本語にはある。日本語での重なり語形といえば代表的なものに、先にみた(例1)のようなものがあるが、まず頭に浮かぶのは擬音語・擬態語である。たとえば、よく知られた例だが、擬音語・擬態語では、それぞれの語が次のような関連性を示す。

(例9)

にこっ(と)	にこにこ(と)	にっこり(と)
にたっ(と)	にたにた(と)	にたり(と)
にやっ(と)	にやにや(と)	にやり(と)

ここでは、日本語の一回語形、重なり語形の問題を広く考察し、また日本語教育上、問題となる点を考察するための基本資料の一部として、以下のふたつの資料を作成した。

(資料1) 重なり語形の分類

(資料2) 一回語形・重なり語形からみた擬音語・擬態語の分類

それぞれの元になった資料は、次のふたつである。

(資料1の元になったもの) 「重ねことば(疊語)の使い方」(『小学教科書国語辞典』, 森島久雄他監, 1982, 旺文社)

(資料2の元になったもの) 『擬音語・擬態語辞典』, (浅野鶴子(編)), 1982, 角川書店)

以下、原資料とそこから作成した資料(1), (2)について簡単に説明する。なお、上記の『擬音語・擬態語辞典』は、以下『浅野辞典』と呼ぶ。

### 3. (資料1)「重なり語形の分類」について

(資料1)の元になった「重ねことば(畳語)の使い方」は、『小学教科書国語辞典』の付録のひとつである。この辞典は、その辞典名が示すとおり、小学生用のものであり、また小学教科書に共通する語彙を収めようとしているから、基本的な重ね言葉が取り上げられていると考えられる。この資料では、重ね言葉がアイウエオ順に並べられ、そこに簡単な例文がひとつ、場合によってはふたつ、みつつ並べられている。

この重ね言葉、つまり重なり語形にここでは次のような分類をほどこした。重なり語形、それぞれの一回語形成分には、もとの品詞をたずねることのできるものも含まれている。そこで、一回語形成分の品詞が直観的に分かる場合には、それに従って分類することにした。また、語句の重なり形は、別に取り出した。

それ以外のものについては、その重なり語形が『浅野辞典』に登録されている場合には、擬音語・擬態語とし、登録されていない場合は、その他とした。この結果、「重ねことば(畳語)の使い方」は、次のように分類された。ここでは同時にそれぞれに含まれた語数、また(資料1)全体における語の総数を( )でつけ加えておく。

- |                   |       |
|-------------------|-------|
| (1) 名詞を重ねている      | ( 17) |
| (2) 形容詞を重ねている     | ( 11) |
| (3) 形容動詞を重ねている    | ( 4)  |
| (4) 動詞を重ねている      | ( 12) |
| (5) 副詞を重ねている      | ( 6)  |
| (6) 語句を重ねている      | ( 1)  |
| (7) 擬音語・擬態語となっている | (255) |
| (8) その他           | ( 28) |
| (合計)              | (334) |

以下、分類上の問題点を簡単に記す。

一回語形成分の品詞が直観的に分かる場合には、それに従って分類すると

したが、「おそるおそる」の「おそる」のように文語的語形を頼りにした場合もある。また、「かわるがわる」のように重なり語形の後半に連濁が生じている場合、それは無視した。

「いらいら」「きらきら」等は、擬音語・擬態語に分類したが、一回語形成分を「いらつく」「きらめく」と結びつけて考えることもできる。しかしながら、後者の「きらきら」は「ぎらぎら」を連想させ、この「ぎらぎら」には「ぎらめく」はないといった問題もある。

「その他」には、漢語の擬音語・擬態語が含まれている可能性もある。『浅野辞典』では、もっぱら和語の擬音語・擬態語を取り扱っているからである。また、『浅野辞典』に登録されていない擬音語・擬態語も「その他」に分類されることになるが、ここでは、それ以上、この問題に立ち入らない。

なお、(資料1)では、「重ねことば(疊語)の使い方」の重なり語形のみを示して各例文はページ数の都合で再録しない。

#### 4. (資料2)「一回語形・重なり語形からみた擬音語・擬態語の分類」について

(資料2)の元となった『浅野辞典』は言うまでもなく、擬音語・擬態語のみを取り上げた辞典であるが、見出し項目として804項目、同類語、類義語としてふれられている小項目は844項目、合計すると、1,648項目の擬音語・擬態語について解説が加えられている。ここでは、『浅野辞典』の総索引をもとにして『浅野辞典』に登録された擬音語・擬態語を次の四種に分類した。

- (1) 一回語形
- (2) 重なり語形
- (3) 変則重なり語形
- (4) その他

(1)には「どっきり」「ひやり」等が、(2)には「うずうず」「がみがみ」等が、(3)には「がたごと」「どたばた」等が含まれる。(4)には、

(3) にうまく収まりきれないもの、たとえば「すたこら」「ぶつくさ」等、また擬音語・擬態語を重ねていると思われるもの「がたびし」「ばちくり」等を含め、さらに「ぎっちりこ」等、擬音語・擬態語に「こ」を伴って別のニュアンスを添えるものを含めた。

この(資料2)には、以下のような付加情報がつけてある。

#### I 欄について

◎ あるいは、○

「◎」は、『浅野辞典』で見出し項目に採られているもので、「○」は見出し語に対する同類語、類義語として採られているものである。

#### II 欄について

O, S, T, J あるいは, o, s, t, j

『浅野辞典』では、見出し語(ここでは「◎」をつけてあるもの)の下に、その語が擬音語であるか、擬態語であるかの別を四種に分け、表示している。この表示を次のように略称を用いて示した。

O 擬音語

S 擬声語

T 擬態語

J 擬情語

『浅野辞典』の表示では、ふたつ以上の用法のあるものはそれが併記され、ひとつの用法が弱まっている場合には、( ) 付きになっている。そこで、ここではふたつ以上の用法があるものについては、ローマ字による略称を併記し、また、その用法が弱まっているものについては、ローマ字の略称を小文字で示している。

#### III 欄について

それぞれの語が天沼寧(編)『擬音語・擬態語辞典』(1974, 東京堂)(以下、『天沼辞典』と呼ぶ。)においても見出し語となっている場合は「A」、準見出し語になっている場合は「a」を用いて示した。

#### IV 欄について

それぞれの語が白石大二『擬声語・擬態語慣用句辞典』（1982，東京堂）（以下、『白石辞典』と呼ぶ。）においても見出し語となっている場合は「D」を用いて示した。

#### V欄について

『日本語教育辞典』（日本語教育学会（編），1982，大修館）の資料のひとつ「擬音語・擬態語一覧」（玉村文郎）では，擬音語・擬態語が意味分野別に整理・分類されて一覧となっている。その分類番号がここに示されている。意味分野別の整理番号は，次のようである。

### 1 音

- 11 衝撃音など
- 12 落下音など
- 13 破裂・反発などの音
- 14 摩擦的な音
- 15 物がまわるときの音，削られるときの音
- 16 きしみ音など
- 17 切ったり，刈ったり，そったりしたときの音
- 18 人の口，のど，はなから出る音
- 19 煮たきの音，羽おと，ベルなどの音
- 110 風などの音
- 111 水・波などの音
- 112 液体・雨・川などの音
- 113 大きな物が水に落ちたり，浮き沈みしたりするときの音
- 114 刃物の音，銃音など

### 2 におい

### 3 味

### 4 材質

### 5 水分

6 0 気象

7 火

8 その他の動作・態様・心情・感覚・音など

81 比較的よく用いられるもの

82 やや特殊なもの

(資料1) 重なり語形の分類

(「重ねことば(疊語)の使い方」『小学教科書国語辞典』、森島久雄他監、1982、旺文社 を元にして)

○ 重なり語形総数 (334)

(1) 名詞を重ねているもの(17)

いちいち	いろいろ	おりおり	けちけち
こなこな	さまさま	それぞれ	だんだん
つぎつぎ	つねづね	つやつや	ときどき
ほどほど	まえまえ	まるまる	もともと
ゆめゆめ			

(2) 形容詞を重ねているもの(11)

あかあか	うすうす	かるがる	こまごま
こわこわ	しぶしぶ	たかだか	ながなが
はやはや	やすやす	ゆるゆる	

(3) 形容動詞を重ねているもの(4)

いやいや	しずしず	らくらく	ろくろく
------	------	------	------

(4) 動詞を重ねているもの(12)

ありあり	いまいき	おそろおそろ	おもいおもい
かわるがわる	しらずしらず	たえだえ	とびとび
のびのび	ますます	みるみる	ゆくゆく

(5) 副詞を重ねているもの(6)

たまたま	まあまあ	まずまず	まだまだ
よくよく	わざわざ		

(6) 語句を重ねているもの(1)

まにまに(間に間に)
------------

(7) 擬音語・擬態語となっているもの(255)

いそいそ	いらいら	うかうか	うきうき
うずうず	うつらうつら	うとうと	うようよ
うろうろ	おずおず	おちおち	おどおど
おろおろ	かさかさ	がさがさ	かたかた
がたがた	かちかち	かつかつ	がつがつ
がぶがぶ	がみがみ	がらがら	からから
がらがら	かりかり	がりがり	かんかん
がんがん	ぎいぎい	ぎしぎし	ぎゅうぎゅう
きよときよと	きよろきよろ	ぎよろぎよろ	きらきら
ぎらぎら	きりきり	ぎりぎり	きびきび
ぐらぐら	くしゃくしゃ	ぐしゃぐしゃ	くすくす
ぐずぐず	くたくた	ぐたぐた	くちやくちや
ぐちゃぐちゃ	くつくつ	くどくど	ぐにやぐにや
ぐねぐね	くよくよ	くらくら	くりくり
くるくる	ぐるぐる	ぐんぐん	こうこう
ごうごう	ごくごく	ごしごし	ごせごせ
ごそごそ	ごたごた	ごちごち	ごちゃごちゃ



(資料2) 一回語形・重なり語形からみた擬音語・擬態語の分類 (『擬音語・擬態語辞典』, 浅野鶴子(編), 1982, 角川書店 を元にして)

○ 擬音語・擬態語総数(1,648)うち, 見出し項目(804), 同類語, 類義語としてふれられている小項目(844)

(1) 一回語形

総数(876), 見出し項目(292), 小項目(584)

	I	II	III	IV	V
あーん	◎	ST	AA		3
あっさり	◎	T	A	D	31
あんぐり	◎	T	A		
うー	◎				
うーっ	◎				
うーん	◎				
うおーん	◎	ST	A		
うかっ	◎				82
うっ(と)	◎	OS			
うっかり	◎	TJ	A	D	81
うっすら	◎	T	AA		81
うっすり	◎		A		82
うっとり	◎	TJ	A		81
うとっ	◎				81
うふっ	◎		A	D	82
うわーん	◎	ST			82
うん	◎				
うんざり	◎	TJ	AA	D	81
おっとり	◎	T	AA		81
かー	◎		AA		
かー	◎		AA		
かーっ	◎		AA		
かーん	◎		a		
かーん(と)	◎	OST			
かーん	◎	T			
かーん	◎				82
かくっ	◎		A		82
かくり	◎		AA		82
かくん(と)	◎	o	T		
かくん(と)	◎	T	AA	D	
かさっ	◎		AA		82
かさっ(と)	◎	o	T		
かさり	◎				82
がさり	◎				82
がしっ(と)	◎		T	AA	
がしやーん	◎		AA		
がしやっ(と)	◎	o	T		
がしやっ(と)	◎	o	T		
がしやり	◎				82
がしやん	◎		A		82

	I	II	III	IV	V
かたっ	◎		AA		82
がたっ(と)	◎	o	T	D	
かたり	◎		AA		82
がたり	◎		AA		82
かたん	◎		AA		101
がたん	◎		AA		101
かちーん	◎		aaa		
がちーん	◎		AA		
かちっ(と)	◎	o	T		
がちっ	◎		AA		82
かちやーん	◎		AA		
がちやーん	◎		AA		
かちやっ	◎		AA		82
がちやっ	◎		A		82
かちやり	◎		AA		101
がちやり	◎		AA		101
かちやん	◎		AA		82
がちやん	◎		AA		82
がちり	◎		AA		101
がちり	◎		AA		101
かちん	◎	o	T		101
がちん	◎		AA		101
かっ(と)	◎	o	T		
がっ(と)	◎	o	T		
かっか	◎		TJ		
かっきり	◎		T	D	81
かっくり	◎		TJ		81
かっくん	◎		AA		82
がっくん	◎		AA		82
がっしり	◎		T		81
がったん	◎		AA		82
かっちり	◎		T	D	81
がっちり	◎		T		81
かっつん	◎		AA		82
がっつん	◎		AA		82
がっぶり	◎		T	D	81
がっぼり	◎		T		81
かっ	◎				82
がっ	◎				82
かっーん	◎				
がっーん	◎				
かっっ	◎				82
がっっ(と)	◎	o	T		
がっん	◎	o	T		
かっん	◎		AA	D	81
がっん	◎		AA	D	82
がば(と)	◎		T		
がばーっ	◎		AA		
がばっ	◎		AA		82
がぶっ(と)	◎	o	T		
がぶり	◎		AA		82
がぼっ(と)	◎	o	T		
かぼっ	◎		AA		82
かぼーん	◎		AA		
がらーん	◎		AA		82
からっ	◎		AA		82
がらっ(と)	◎	o	T		
がらり(と)	◎	o	T		81
からん	◎		AA	D	82
がらん(と)	◎	o	T		
かりっ	◎		AA	D	82













	I	II	III	IV	V
ぼっちり	◎	T			81
ぼってり	◎	T	A		81
ぼつつ	◎				82
ぼつり	◎		A		82
ぼつん	◎	o T	A		81
ぼてっ	◎				82
ぼとっ	◎				82
ぼとり (と)	◎	o T	A		82
ぼとり	◎		A		82
ぼとん	◎		A		82
ぼとん	◎		A		82
ぼやっ (と)	◎		A		82
ぼやっ	◎	T	A		82
ぼろっ (と)	◎	o T	A		82
ぼろっ	◎		A		
ぼろり	◎		A		
ぼろり	◎		A		
ぼろん	◎		A		82
ぼろん	◎				82
ぼん	◎		A	D	81
ぼんのり	◎	T J	A		81
ぼんやり	◎	T J	A		81
ぼんわか	◎	T T	A		81
まんじり	◎	T			81
みっしり	◎				82
みっちり	◎	T		D	81
むっ	◎		A		82
むかっ	◎		A		
むす (と)	◎	T	A		
むすっ (と)	◎	T T J	A		
むっ (と)	◎	T T J	A		
むっくり	◎	T T	A		81
むっちり	◎	T T	A		81
むつつ	◎		A		82
むつつり	◎	T	A		81
むんずきり	◎	T	A		82
めりっ	◎		A		81
もさっ (と)	◎	T	A		82
もさきり	◎		A		82
もやっ	◎		A		82
もやっ	◎		A		82
もわっ	◎	T	A		81
もわっ	◎		A		81
やんわり	◎	T T	A		4 81
ゆっくり	◎	T T	A		81
ゆったり	◎		A		81
ゆらっ	◎		A		82
ゆらり	◎		A		82
よりっ	◎		A		82
りん	◎		A		82
わっ	◎		A		82
わん	◎	o S T	A		81
わっ (と)	◎	S T	A		81
わん	◎		A		81
わんさ	◎	T	A	D	81

(2) 重なり語形

総数 (656), 見出し項目 (475)

小項目 (181)

	I	II	III	IV	V
あっぶあっぶ	◎	o T	A	D	81
いじいじ	◎	T T J	A	D	81
いそいそ	◎	T T J	A	D	81
いちゃいちゃ	◎	T T J	A	D	81
いらいら	◎	T T J	A	D	81
うーんうーん	◎				
うかうか	◎	T J J	A	D	81
うきうき	◎	T T J	A	D	81
うじうじ	◎	T T J	A	D	81
うしゃうしゃ	◎	T T J	A	D	81
うずうず	◎	T T J	A	D	81
うつらうつら	◎	T T J	A	D	81
うとうと	◎	T T T	A	D	81
うねうね	◎	T T T	A	D	81
うはうは	◎	T T T	A	D	81
うようよ	◎	T T T	A	D	81
うらうら	◎	T T T	A	D	6 8
うろろろ	◎	T T T	A	D	81
うんうん	◎	T T T	A	D	81
おいおい	◎	S T T	A	D	81
おすおす	◎	S T T	A	D	81
おそるおそる	◎	T T J	A	D	81
おたおた	◎	T T J	A	D	81
おちおち	◎	T T J	A	D	81
おとおど	◎	T T T	A	D	81
おろおろ	◎	T T T	A	D	81
おんおん	◎	S T	A	D	81
かーかー	◎	S	A	D	81
かーかー	◎	o S	A	D	81
かくかく	◎	o T	A	D	81
かくんかくん	◎	o T	A	D	81
かさかさ	◎	o T	A	D	104
がさがさ	◎	o T	A	D	104
がしゃがしゃ	◎	o T	A	D	104 82
かすかす	◎	T	A	D	81
かたかた	◎	o T	A	D	101
かたかた	◎	o T	A	D	101
かたんかたん	◎	o T	A	D	82
がたんがたん	◎	o T	A	D	82
かちかち	◎		A	D	4 81
がちがち	◎	o T	A	D	81
かちゃかちゃ	◎	o T	A	D	101 81
がちゃがちゃ	◎	o T	A	D	101 81
かちゃんかちゃん	◎	o T	A	D	82
がちゃんがちゃん	◎	o T	A	D	82
かっかっ	◎	o T	A	D	81
かっちゃんかっちゃん	◎	o T	A	D	81
がっちゃんがっちゃん	◎	o T	A	D	82
かっぼかっぼ	◎	o T	A	D	81
がっぼがっぼ	◎	o T	A	D	81
かつかつ	◎	o T	A	D	81
がつがつ	◎	o T	A	D	81
かつんかつん	◎	o T	A	D	81
がつんがつん	◎	o T	A	D	82













	I	II	III	IV	V
つるつるっ	◎		a		82
てきばき	◎	T	A		81
どかどかっ	◎				82
どきどきっ	◎		a		82
どきまぎ	◎	T	A	D	
どたばた	◎	T	A	D	81
どんちゃん	◎	O	A	D	81
ぬらりくらり	◎	T	A		81
のらりくら	◎	T	A		81
のらりくらり	◎	T	A		81
はたはたっ	◎		A		82
はたはたっ	◎		A		82
はっは	◎		A		82
はっはっは	◎		A	D	82
はらばらっ	◎		A		82
はらばらっ	◎		A		82
はりはりっ	◎		A		82
はりはりっ	◎		A		82
びりびりっ	◎		A		82
びりびりっ	◎		A		82
ぶっぶー	◎				
ふらふらっ	◎		a		82
ぶるるっ	◎		A		82
ぶるるっ	◎		A		82
べちゃくちゃ	◎		A		82
べちゃくちゃ	◎		A		82
べちゃくちゃ (と)	◎			d	
へどもと	◎	T	A		81
べらべらっ	◎		A		82
ぼかぼか	◎				82
ぼっかぼか	◎		a		82
ぼっぼ	◎	O	A		81
むしゃくしゃ	◎	T	A		81
めちゃくちゃ	◎				82
やきまき	◎	T	A		81
りりーん	◎	J	A		

(4) その他

総数 (26), 見出し項目 (8), 小項目 (18)

	I	II	III	IV	V
がたびし	◎			D	82
がたびし	◎	O	T	A	101
がたんびしん	◎				82
がたんびしん	◎			A	82
ぎっちらこ	◎			A	82
こてんばん	◎			A	82
しゅっしゅっばっば	◎				82
しわくちゃ	◎				82
すたこら	◎		T	A	81
すってんころり	◎			A	82
すってんころり	◎			A	82
すってんてん	◎		T		81
すてんころり	◎				82
ずでんどー	◎				
ずんぐりむっくり	◎			A	82
ちよごなん	◎			A	82
ちよごまか	◎			A	82
ちんちろりん	◎	S		D	109 81
つーかー	◎		T	A	
どんびしゃり	◎		T	A	81
はくしよん	◎				82
ばちくり	◎		T	A	81
ひっそりかん	◎			A	
ぶつくさ	◎		T	A	81
べしゃんこ	◎				82
べったんこ	◎			A	82